



発行 信太山に里山自然公園を求める連絡会

連絡先 NPO 法人信太の森 FANクラブ 0725-44-8404 e-mail : hanaizm@ares.eonet.ne.jp

和泉市信太山丘陵市有地保全・活用検討委員会

第1回 平成24年9月7日 開催される！

信太山丘陵保全・活用に大きな一歩となるか？

信太山丘陵市有地の保全と活用について

平成24年6月19日、和泉市議会 総務安全委員会・協議会で以下の報告がなされました。

平成10年度から、公共施設の整備や生活道路拡幅を目指して取り組んできた「北部地域公共施設整備事業（Sゾーン）」につきましては、平成23年市議会第3回定例会における「信太山丘陵の市有地（16ha）自然環境の保全に関する請願」の採択や土地開発公社の解散決定等を踏まえ、今年度、「信太山丘陵市有地保全・活用検討委員会」を設置し、自然環境の保全と市民の財産としての活用等について、有識者等を交えた検討を行います。 —政策企画室長—

以上の報告に基づき、「信太山丘陵市有地保全・活用検討委員会」（以下「保全・活用検討委員会」）の市民公募などが行われ、去る9月7日第1回の保全・活用検討委員会が開かれました。

委嘱状の交付、委員の紹介、委員長の選出などセレモニーに続き、会議の進め方や審議スケジュール、信太山丘陵の市有地の経過説明が行われ、保全・活用についての視点、理念とコンセプトが討議されました。

特に理念とコンセプトの議論では委員の方々より市の担当者に対しするどい質問がだされ、熱心な討議が行なわれました。

1. 委員の委嘱

委員には以下の方々を委嘱されました。

①学識経験者その他専門的な観点から検討を行う知識経験を有すると市長が認める者

巖 圭介(桃山学院大学社会学部教授)

内田 敬(大阪市立大学大学院工学研究科教授)

増田 昇(大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授)

② 公募による市民

田丸八郎、露口裕子、三輪健一郎

の6名。巖 圭介委員は昆虫生態学、内田 敬委員は交通工学・都市再生、増田 昇委員はランドスケープ、和泉市環境審議委員長であると紹介されました。市民の3名は公募に応募した者で、田丸八郎委員は（NPO法人信太の森FANクラブ）露口委員は（和泉・夢と歴史を創る会）、三輪健一郎委員は（NPO法人いずみの

国自然館クラブ) に所属しています。3つの団体は「信太山に里山自然公園を求める連絡会」の参加団体です。(それぞれ所属の団体名などは紹介されませんでした)

委員互選により、委員長に増田 昇委員、副委員長に内田 敬委員が選出されました。

2, 辻市長より委員会へ諮問

① 諮問事項

和泉市信太山丘陵における市有地の保全・活用に関する基本方針(案)

- 1, 理念
- 2, 事業の方向性
- 3 おおまかなゾーニング
- 4 必要となる施設

② 諮問理由

信太山丘陵における市有地は、市街地に隣接しながらも古くから陸上自衛隊信太山演習場であったことから、多様な野生生物が生息する場となっており、高い自然的価値を有しています。

今後この地を市民の財産として有益に活用するため、豊かな自然環境の保全と市民活用の基本的な方針を示していただきたく諮問するものです。

この諮問でも明らかなように、16haの市有地は「豊かな自然環境の保全」ということが明確に打ち出されており、後から論議された理念とコンセプトの場を考慮に入れても信太山丘陵の自然環境の保全には大きな前進を予感させました。

3, 信太山丘陵市有地のこれまでの経過

政策企画より丘陵市有地の経過の報告があり、環境保全課からは「和泉市自然環境調査」について信太山丘陵部の市有地に関する委託調査の報告がなされた。なお、調査結果の概要は以下のように示されました。

確認種数一覧

分類	総数	府	国	代表的なもの
植物	487	16	5	トキソウ
昆虫	431	3	0	クルマバツタ
両生類・は虫類・ほ乳類	16	2	1	カスミサンショウウオ
鳥類	56	14	4	ミサゴ

府：大阪府における保護上重要な野生生物

国：環境省レッドリスト

内田委員より、環境審議会の意見書を受けて信太山丘陵を調査対象のエリアに決めた理由が問われました。担当からの説明はありましたが、より具体的には、当時、平成21年7月登場した新市長辻宏康氏は、信太山丘陵のスポーツ施設計画を見直す意思表示をし、そのため信太山の自然調査の補正予算を計上(7月13日)したというのが直接的な経緯です。ただ、その事が委員会で明らかにされなかったのは残念といえます。

また、信太5号線について同委員より、生活道路の確保、ゾーニングとの関係、他の場所につくこともあるのかなどの質問が出ました。道路のことは後できっちり議論していこうということになりました。なお、委員会へは政策企画、環境保全、都市デザイン、公園、道路など関係する部署約15人が参加していました。



サギソウ咲く

(絶滅危惧Ⅱ類 環境省)

信太山丘陵市有地内の湧水涵養湿地にサギソウが今年も咲きました。今年の厳しい暑さと雨不足で湿地は乾燥気味でしたが約20ヶの花数を確認。

4, 理念とコンセプト論議

以下の文章がたたき台として示されました。

理念

- ◎ 貴重な動植物が生息する自然的価値が高い信太山丘陵は、市民の財産であり、次の世代へも継承していくべき地域の自然のシンボルである。
- ◎ 地域の方々に親しまれてきた歴史と都市に近い豊かな自然という稀な特性を活かし、市民の憩いの場、自然体験の場、環境学習の場などとして、市民がその良き財産を実感できるよう市民とともに育んでいく。

*増田委員長のリードでこの場面では大いに議論が進みました。増田委員長は「人々が何かと手をかけてきたから自然が残ってきた」理念の中に入れるべきだと指摘。

*内田委員より地域の方々に親しまれてきた歴史についての質問が有り、政策企画森吉氏は、「この地域は須恵器の窯跡の多いところ、対象地にも窯跡があるかもしれない」と発言。増田委員長は「聖神社が近い」と言われましたが、人々との親しみで言うなら、この周辺一帯がかつては「信太の森」とよばれ、文学や芸能とゆかりが深く今なお人々の関心にあることとして説明してほしいと傍聴していて感じました。

*内田委員「地域のシンボル」やコンセプトの語句「和泉らしさ」について、地域のシンボルというより「和泉のほこり」「日本のほこり」「世界のほこり」などと改めてはと提案。

*増田委員長は「財産を実感できる」とあるが「新たな人と自然の係わり方が大切である。新しい仕組みがつくられねばならない」と主張。

*公民協働について

コンセプトの重要な概念に「公民協働」が市民参加や担い手作りに係わり定義されています。増田委員長は公民協働というけれど単なる安上がり労働の提供ではなく「公は何ができ、民は何をするのか」を明らかにしなければならないと明言。その例として、「30年も40年も放置してきた木は、素人では伐採できない。専門家

のみ可能であり、それは公の仕事だ」と述べられた。

また、今回の事業に関して

- * 「市の財政的な枠は」 ?
 - * この作業は「長い時間の中で考えていくべきである」
 - * 完成図を示して、それに迫るというやりかたではダメだと思う
- などかなり活発に議論され、質問を受ける市側もたじたじであったように感じました。

1日目の委員会を傍聴して、

- ① 委員の先生方が市に対してもかなりはっきり発言をされている。
- ② 市民代表の委員の方々も、先生方の認識を深める貴重な現場の意見をあげている。
- ③ 自然環境の保全が中心に語られていることなどから、この保全・検討委員会が信太山の保全に向けて確かな前進を示してくれるのではないかと期待感を覚えました。(文責花田)

5, 今後の委員会の予定

第2回 9月27日(木) 9:30~11:30

市役所3号館市議会委員会室
前回の振り返り
制度比較、事例紹介
事業の方向性

第3回 11月12日(月) 14:00~16:00

市役所3号館市議会委員会室
前回の振り返り
大まかなゾーニング
必要となる施設

第4回 12月21日(金) 14:00~16:00

市役所3号館市議会委員会室
基本方針

第5回 1月30日(水) 14:00~16:00

市役所3号館市議会委員会室
答申書の最終審議
基本方針(案)
理念
事業の方向性
大まかなゾーニング、
必要となる施設
市長に答申書提出(25年2月上旬)

秋の研究会・シンポジウム

第1回 草地生態系研究会

信太山丘陵の草地をどう守り維持していくのか？

信太山丘陵の市有地16haは、市民運動の結果、スポーツ施設ではなく、自然環境を保全していく方向で検討されています。現地を歩き、地元のみなさんとも意見交換しながら市民サイドから保全の方法など提案・検討しようと思います。

9月29日(土) 集合：鶴山台4丁目バス停 13:30(北信太駅13:00)

現地調査：13:30~15:00

研究会：15:00~17:30(鶴山台連合自治会館) Pは商店街駐車場へ

報告：花田茂義(NPO法人信太の森FANクラブ)

島佐代子(全国カヤネズミ・ネットワーク代表)

参加費：300円

申込み：大阪自然環境保全協会 草地生態系研究会 06-6242-8720

主催：大阪自然環境保全協会 草地生態系研究会

シンポジウム

市民による信太山丘陵の保全・活用計画

— 里山自然公園をめざして—

11月23日(金・祝日) 13:00~16:00

ところ：和泉コミュニティセンター(大集会室)

報告：① 夏原由博(名古屋大学環境学研究科)

「湿地の植物・生き物の保全」(仮)

② 藤原宣夫(大阪府立大学大学院生命環境科学研究科)

「里山の管理と里山自然公園」(仮)

討論：両先生他パネラー、会場参加者

主催：信太山に里山自然公園を求める連絡会